

平成29年度予算編成方針

本年6月、今後10年間の区政運営の羅針盤となる「墨田区基本計画」を策定した。この計画は、前基本計画の施策の達成状況や、社会経済情勢の変化などを踏まえつつ、人口推計や予測される社会潮流を捉えて取りまとめたものである。

計画策定に当たっては、新たな政策・施策の方向性に基づき、施策体系の再構築を行うとともに、これまで積み上げてきた行政評価制度による施策の成果や目標値の達成状況を検証し、新たな数値目標を設定した。

さらに、夢と希望を育む、どこよりも素敵で魅力的な「暮らし続けたい・働き続けたい・訪れたいまち」を実現していくうえで、優先的かつ重点的に取り組むべき施策を“夢”実現プロジェクトとして位置づけ、計画期間の前期5年間に重点的に取り組むこととしている。

一方、我が国の景気が、緩やかな回復基調を続けている中で、本区の財政においても、人口増や景気回復に伴う特別区民税や特別区交付金の増収がみられ、歳入環境が好転している。また、平成27年度決算では、経常収支比率の更なる改善が見られたほか、区債残高の減少と基金残高の増加もあり、これまでの行財政改革の効果も相まって、本区財政は着実に健全化に向かっている。

このような状況において、平成29年度予算は、次に掲げる基本的な考え方に基づいて編成する。

1 予算編成の基本方針

- (1) 新基本計画策定後に編成するはじめての予算として、「すみだの夢」の目標達成に向けた“夢”実現プロジェクトを中心に、計画に掲げる各施策の着実な推進を図る。
- (2) 選択と集中等による事務事業の見直しや、時代の変化を見据えた新たな施策の推進などにより、更なる行財政改革を推進する。

2 予算の位置付け

“すみだの夢”実現に向けた着実な事業推進により、新たなステージを切り拓く予算

3 重点課題

- (1) 「暮らし続けたいまち」の実現に向けて

ア 子ども・子育て支援の充実

待機児童の解消に向けて、子ども・子育て支援事業計画の見直し、保育

所等の整備支援や、安全で安心な放課後の居場所の充実に取り組むほか、妊娠初期から出産後、就学まで、それぞれの期間に必要となる子ども・子育て支援を切れ目なく推進する。

特に、子育てを応援する区政として、結婚・妊娠・出産の3つのステージの夢を育む施策を重点化する。

「新すみだプラン」の推進等による学力向上を図るとともに、地域・家庭・学校が連携して、知・徳・体のバランスのとれた「すみだらしい教育」を展開する。

「新住宅マスタープラン」の推進による子育てに適した住宅の整備誘導を行うとともに、子どもを安心して遊ばせることができる公園等の整備により、子育て世帯が地域のなかで安心して住み続けられる住環境をつくる。

イ 地域力日本一の、住んでいてよかったまちをつくる

多様な主体の連携による地域の災害対応力を高めていくとともに、建築物の不燃化・耐震化やまちづくり事業を促進し、ソフト・ハード両面からの安全安心なまちづくりを進める。

誰もが住みなれた地域でいきがいをもちながら、安心して暮らし続けられるように、高齢者や障害者等、支援を必要とする人にさまざまな福祉サービスの提供等を行う。

地域コミュニティや地域防災活動などの多様な担い手の確保に向けて、人材・団体を発掘・育成するとともに、それら人材等が連携するしくみづくりを進め、地域力のさらなる充実を図る。

(2) 「働き続けたいまち」の実現に向けて

新分野への参入促進、新ものづくり創出拠点整備や地域ブランド戦略の推進などによって、産業のさらなる活性化を図り、「ものづくりのまち すみだ」を次の世代につないでいく。

社会経済情勢の変化等を踏まえて、新たな産業支援体制を構築し、「ビジネス」、「ものづくり」の両面から、区内中小企業の課題解決を支援していく。

商業振興については、地域力を育む、特色ある商業空間づくりに取り組んでいく。

政府による「働き方改革」の議論が進められている中で、本区においても、区民や区内企業のワーク・ライフ・バランスに対する理解を深めることにより、女性の活躍を推進し、希望に応じて家庭と仕事、その他さまざまな活動に取り組むことができる環境づくりを推進する。

働きたい人が就労できる環境づくりを進めるため、若者や元気な高齢者、

障害者等に対してさまざまな支援を行うほか、子どもたちが「働くこと」について考えるとともに、本区の産業への興味をもつ機会をつくる。

(3) 「訪れたいまち」の実現に向けて

すみだ北斎美術館の運営と、区内に点在する美術館・博物館等をつなぐ観光ネットワークの構築、豊かな水辺を活用した魅力の向上、道路のバリアフリー化など、誰もが安心してまち歩きを楽しみながら、区内の至るところで「すみだらしさ」にふれることのできるまちづくりを進める。

3M運動や地域ブランド戦略推進など、「ものづくり」を観光資源として活用し、職人の技術にふれる機会や、区内企業の高い技術力に基づいた製品等、このまちでしか味わえない魅力的なものづくり観光を来街者に提供する。

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、来街者をおもてなしの心で迎える担い手の育成をはじめ、観光案内所の機能強化、体力向上・オリンピック教育の推進など、気運の醸成を図る。

(4) シティプロモーション戦略の推進

すみだのもつ資源を掘り起こし、新たな魅力を創造することで、区民や区内事業者など、すみだで暮らし、活動する人々の愛着と誇りを育む「シビック・プライド」と、区職員が区民と一緒により良いまちづくりをめざす「スタッフ・プライド」の醸成に取り組む。

効果的・戦略的な情報発信によって、すみだの魅力を国内外に広め、区外の人々のすみだに対する共感を生み、憧れを高める取り組みを展開する。

区民をはじめすみだに関わるすべての人が、当事者としてまちを発展させていく活動に携わるしくみをつくり、愛着と誇り、憧れなどを原動力にしたシティプロモーションを展開する。

(5) その他の課題

生活に困窮している家庭にあっても、子どもたちが夢と希望を育むことができるよう、学習の機会と場の提供をはじめとした子どもの貧困対策を総合的に推進し、貧困の連鎖の防止に取り組む。

区民が自らの健康状態を知り、健康寿命を伸ばすために、健康診査の受診機会の拡充や総合的ながん対策を推進するほか、食生活、運動、休養等の生活習慣の改善に取り組みやすい環境を整備する。

大学誘致について、本区への進出を希望する大学との協議を精力的に進め、進出大学を早期に決定する。

第2次実行計画に基づく「公共施設マネジメント」を着実に推進する一方、新保健センターの整備をはじめとする、基本計画に掲げる公共施設等整備事業について、着実な推進を図る。

平成29年が本区の区制施行70周年に当たることから、その記念事業を選定し、推進する。

このほか、新基本計画の「区が取り組む主な事業」をはじめとする各部課の事業について、優先順位の高いものから予算化を図り、各施策目標の達成に向けて取り組むものとする。

(6) 行財政改革の推進

新基本計画を効果的・効率的に実現させるためには、「選択と集中」による行政運営や、「民間感覚」と「スピード感・コスト意識」を重視した経営視点を主眼に置き、持続可能な行政サービス基盤の確立と簡素で効率的な行政システムを構築する必要がある。

このため、本年6月に策定した「墨田区行財政改革実施計画」に基づき、事務事業の見直しによる効果的・効率的な行政運営を推進するほか、同時期に策定した「第2次墨田区公共施設マネジメント実行計画」による公共施設の再編、効率的な管理運営、施設の生涯費用（ライフサイクルコスト）の一層の低減に積極的に取り組み、これまで以上の財源確保と経費削減に努める。

「行政情報化推進計画」に基づき、「便利さの向上を常に考える電子自治体」に向けて一層の情報化に取り組み、業務プロセスを見直し、全庁的な業務改善を図っていく。